

他業界を实践する

優良企業の仕事を实地体験し 次世代経営人材の育成を促す

先進的な取り組みやすぐれたサービスを実施する企業にインターンとして飛び込み、その実務を体験する。サービス産業生産性協議会 (SPRING) が提供する企業研修「大人の武者修行」は、書籍やセミナーからでは得られない、深い学びを実現できる注目の研修形態だ。

© striZh - Fotolia.com

中小企業の社員を対象に 異業種の現場で研修実施

「大人の武者修行」は、中小企業の社員を対象にしたインターンシップ事業だ。サービス産業生産性協議会が優れた職場と認定した受け入れ企業（修行先）で、武者修行し、さまざまな経験や学びを得る、实地体験型の企業研修と言える。経済産業省の補助事業「中小企業・小規模事業者人材対策事業（中小サービス業中核人材の育成支援事業）」として2014年にスタートした。修行者を派遣する企業には研修費や交通費、滞在費

の3分の2の経費補助が受けられる（図表）。

。武者修行者の条件は、現在サービス産業の中小企業に勤務する人で、医療・介護事業者も対象となる。過去には病院の職員がIT企業で武者修行を行った例もあるという。「志願者は課長や主任など30〜40代の中堅社員が大多数を占めており、修行の期間は最短で2週間です」と同会のプロデューサー、高橋克幸氏は説明する。

修行先は同会の「ハイ・サービス日本300選」や「おもてなし経営企業選」などで選ばれた日本各地の優良企業のなかから、「大人の武者修行」の趣旨に賛同した約100社で、業種は多岐にわたる。

修行者は申込書と志願先や志願理由などをまとめた志願書を記入し、同会に提出。修行先は志願書などを参考に選考を行い、修行者を決定する。15年度は33人の志願者のうち、25人の修行が実現した。多くの修行者は、トップダウンで派遣を命じられる。社命により修行をすることで、「自分は会社から期待されている」と感じる修行者も少なくないそうだ。

修行者の決定後は事前研修を実施



サービス産業生産性協議会の高橋克幸氏(左)と柿岡明氏

施。ここで自身のキャリアや修行先で学びたいこと・身につけたいことなどをまとめた「私の取扱説明書」を作成する。修行者は、作成した「私の取扱説明書」を持って修行に臨み、その初日、修行先の企業で自分についての説明を行う。これにより、修行者への理解が深まり、受け入れがスムーズに進むという。

修行で高まる自社への 帰属意識と代表意識

修行先については、ほとんどの修行者が現在勤務している業種とはまったく異なった業種の会社を希望する。

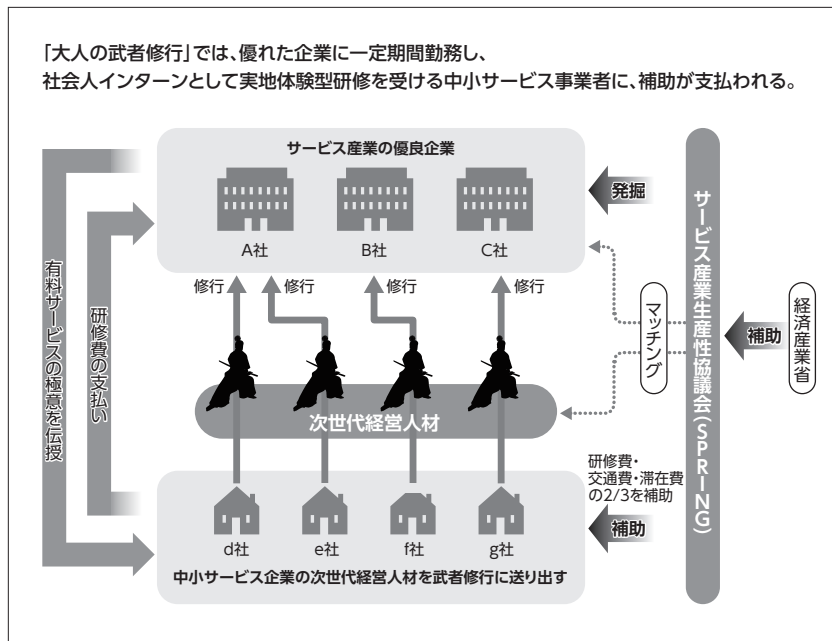
「廃棄物処理業の社員がタクシー会社へ修行に行った例がありま

他業界の知恵と工夫を介護に活かす



一般廃棄物処理業で修行した、会計事務所所属の久保田誠氏。新しい試みを全社ではなく部分的(会議単位)で導入して検証するといった、導入方法の工夫を学んだという

図表 「大人の武者修行」の仕組み



法人概要

サービス産業生産性協議会 (SPRING)

〒150-8307 東京都渋谷区渋谷3-1-1

(公財)日本生産性本部内

TEL : 03-3409-1189

http://shugyo.jp/

す。その目的は、配車管理とドライバールのホスピタリティについて学ぶこと。修行先の企業をよく研究したうえで、修行に出ているのです」と同会のチーフプロジェクトマネージャー、柿岡明氏は話す。

修行者は、修行中は同会に日報での活動報告が義務付けられている。「2週間の修行なら1週間が経過した中間地点で修行先を訪問し、指導者と修行者、それぞれ個別に面接して話を聞いています」(柿岡氏)

ちなみに、修行者がそのまま修行先の企業に転職してしまった例は皆無だという。

「修行者のほとんどは修行によって現在の職場での業務に対してモチベーションが上がるようです」と、柿岡氏は強調する。これは「大人の武者修行」が次世代経営人材向け事業とどうたわれており、修行者として選ばれることで、「自分は将来、経営を担う人材だ」と感じ、自社に対する帰属意識が高まるからだという。また、自社の得意分野に関する知識や情報を修行先に教えることもある。これも、自社を代表する意識が高まることにつながっている。

修行後の感想としては、「自社との違いを感じた」が圧倒的に多い。そうした感想を分析したところ、次のようなパターンで修行者の意識が変化している様子が見て取れる。

- ① 修行当初…修行先に対する「驚き」と、派遣してくれた自社への「感謝」の念の芽生え
- ② 修行半ば…修行先と自社との比較・対照化
- ③ 修行終盤…自社に戻った際にやるべき目標・目的の設定

さらに、この武者修行による副産物も生まれている。修行終了後、両者の経営者間の交流に進展し、事業のコラボレーションの話が持ち上がったケースだ。「武者修行を通じて、まず人間同士の信頼関係が築けたことが、その後の発展につながったと考えられます」と、高橋氏は効果を語る。

エース級の社員を2週間以上も修行に出すということはたやすいことではない。しかし、自社の経営課題の解決や次世代の経営人材育成を考えたとき、得られるものは決して小さくはないと言えるだろう。

(取材・文/長北健嗣)